

キャリア・パスポートの効果的な活用を目指して

—自己理解を深め、自己肯定感を高めるために—

大嶋 慧（京都市総合教育センター研究課 研究員）

変化の激しい社会に対応しながら生きていくためには、自分に自信をもち、意欲的に学び続けるという自主的に活動できる力がますます必要であると考えます。

このことを実現するために、キャリア教育の充実を図ることが示された。これまでからもキャリア教育の重要性については言及されてきたが、キャリア教育で育成すべき基礎的・汎用的能力が曖昧なまま取り組まれてきたことも多かったように感じる。そこで、本研究では、キャリア教育の充実のために、今回明示された、キャリア・パスポートの効果的な活用について研究を進めた。

第1章 今、求められるキャリア教育

第1節 キャリア教育の必要性

キャリア教育とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」である。この基盤となる能力や態度である「基礎的・汎用的能力」の育成を通して、一人一人の児童が自分のよさや可能性を認識し、社会との関わりの中で、主体的に行動できるようになることが期待されている。

第2節 本研究の構想

過去、様々な調査により、日本の子どもの自己肯定感が低いという結果が示されている。自己肯定感は肯定的で確かな自己理解によって得られる自信や自己有用感を高めることによって育つだろうと考える。そこで、キャリア教育で育む資質・能力のうちの「自己理解能力」に着目をした。

肯定的に自己理解を深めることは、現在の自己を適切に知ることになり、自分に合った目標をそれに合わせて設定ができるようになる。そのことで、目標が達成できる場面が多くなると、自分に自信をもち、自己有用感が向上し、結果として自己肯定感の高まりにつながると思う。確かな自己理解を深めることができるようになることで、なりたい自分を実現するための目標が段階的に立てられるようになるだろう。

自己理解能力を育成するには、今回、新学習指導要領で示されたキャリア・パスポートが大変有効な手段になると考える。キャリア・パスポートを活用し、自己理解能力の向上を目指すサイクルを回していくために成長ノートを活用し、肯定的な言葉がけを行った。

以上を踏まえ、本研究の構想を図1に示す。

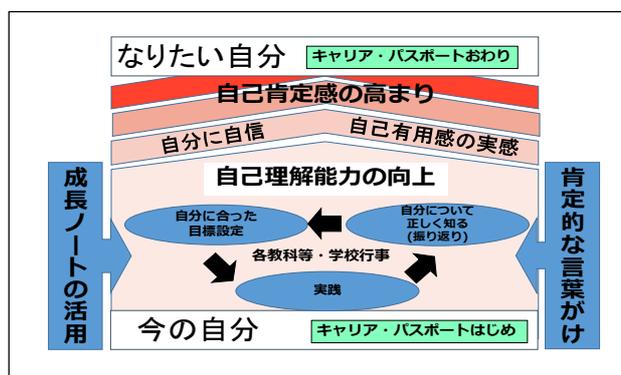


図1 本研究の全体像

第2章 キャリア・パスポートの効果的な活用を目指して

第1節 キャリア・パスポートの活用

本研究で使用するキャリア・パスポートは、文部科学省が提示したキャリア・パスポートを参考に「自己理解」という視点で作成した。これを活用し、自己について考え、適切な自己理解ができるようにした。

キャリア・パスポートを使った活動を充実するためには、教育活動全体を通して行わなければならない。また、キャリア・パスポートの取組を充実するためにキャリア・パスポートのはじめとおわりの間をつなぐ「成長ノート」を活用することが重要であると考えた。特に今年度研究では学校行事の振り返りに焦点をあて、取組を行った。

第2節 多角的な視点から

自己理解を促す方策

自己評価だけでは、確かな自己理解ができるとは限らない。そこで大切になるのは、他者からの言葉がけである。他者からの肯定的な言葉がけは、自己の気付きをもたらす大切なものになると考え、

取組を行った。

活動の振り返りを行う際に、友だちとの活動を通して、成長したことについて肯定的な言葉がけの交流や教師や他の大人からの対話的な交流を行った。

第3章 実践について

第1節 キャリア・パスポート〈はじめ〉

キャリア・パスポート〈はじめ〉では、今の自分についてと、なりたい自分について考えた。具体的になりたい自分について考えるために、1年先の自分についてイメージし、また、なりたい自分に向けて頑張りたいことや挑戦したいこと等具体的に記入した。考えたことから自分がしたいことを意思決定し、実践までつなげていった。

第2節 行事でつなげる 成長ノート

成長ノートの実践においては、めあてを考える場面では学校行事のはじめの時間、振り返りの場面では、最後の活動の時間を活用し、実践を行った。

学校行事ごとに、自分のめあてを考えて、自分の成長したことについて振り返り、どんな力が付いたかを書きためていった。

振り返りの際、肯定的な自己理解へとつながるように、友だちと肯定的な言葉がけの取組を行った。この取組で、自分では気付かなかった成長に気付いたり、自分の成長に自信をもったりすることができ、肯定的な自己理解が深まっている様子が見られた。

第3節 キャリア・パスポート〈おわり〉

キャリア・パスポート〈おわり〉では、1年間の自分の成長についてや自分の頑張りについて、成長ノートを手がかりにして考え、キャリア・パスポート〈おわり〉に記述した。また、キャリア・パスポート〈はじめ〉を活用して、なりたい自分について読み返し、さらなる成長のため、残りの日を使ってさらに頑張りたいことについて考えた。

第4章 研究の成果と今後の課題

第1節 研究の成果・今後の課題について

○児童実態から

キャリア・パスポート〈はじめ〉では、自分のことが好きではない児童がいた。実践を通して、自分について考えを深めることができた。また、友達からの肯定的な言葉をもらうことで自分について深く考えることができるようになってきた。

取組を通して「自分に自信をもってもいいのだ」と気づくことができ、様々な場面で自信をもち、人のために頑張る姿がみられた。

他の子どもたちにも、学校行事だけではなく、普段の学習においても、自信をもって発表する姿や、意欲的に学習に取り組む子どもの姿が見られた。なりたい自分を目指して頑張ることや、友だちや先生などから肯定的な言葉をもらうことで、子どもたちの意欲に変化が見られた。

○研究員ヒアリングから

教師がキャリア・パスポートや成長ノートでなりたい自分についてや頑張りなどについて見取ること、子ども一人一人が今何に向かって頑張ろうとしているかが分かり、子どもの理解に役立った。それによって、子どもたち一人一人へのはげましの声やかかわり方が具体的になったり、変化したりした。

実践協力校(A校)では、キャリア・パスポートや成長ノートを個人懇談会の資料として提示した。保護者には、子どもたちが今、「どんな自分になりたいのか」、そのために「どのようにがんばっているのか」など、資料を基に話すことができた。個人懇談会后に、キャリア・パスポートや成長ノートへコメントをもらうことができ、子どもたちへのはげましへとつながった。

この研究での取組は、子どもが成長を実感し自己理解を深めるだけではなく、教師の授業の改善や教師や保護者の児童(子ども)理解につながると言える。

第2節 さらなる充実を求めて

6年間を通して、成長ノートを活用し、学校行事ごとの成長の記録をためておくことで、成長の実感はもちろんのこと、過去の自分の姿についてもより深く振り返ることが可能になると考える。1年間だけではなく、6年間通して自分ができたこと、達成したことを成長ノートで書きためておいたり、他者からもらった肯定的な言葉を残しておいたりすることで、より効果的に自己理解を深めたり、自分の成長が蓄積されることで、自己肯定感が高まっていくと考えられる。

また、学校行事では、児童が自分自身の成長を感じる場面が多くあったので振り返りが大切になると考える。日々の学習での振り返りと成長ノートをつなげ、より充実した成長ノートへの記録が大切であると考えられる。